

「これからのまちづくり協議会」検討会 第2回意見概要のまとめ

①活動実施体制～総務部門の活性化方法

理想	提案アイデア	困っている
事務局体制の整備 全てを俯瞰、調整役、全体のコーディネート、総括 活動の見直し、再編成、連絡係		まちづくり協議会の体制整備が必要 先を見通すこと 総務部門はない 位置付け、 仕事の範囲が不明確
	会長をサポート 会計担当、庶務、 スポークスマン  年間行事予定表、 予算管理、 広報誌、記録 ↑ パソコン活用	まちづくりセンターに頼っている 資金がない 担い手の負担、偏り？ 話し合いが足りない

②ひとづくり～継続性のある活動に向けた円滑な役員の引継方法

理想	提案アイデア	困っている
多世代による活動、 誰がやってもできる組織体制 自分から手をあげてくれること、 人脈、人材 若い人でもやりやすいように 地域活動への理解を深め、 横の広がりを	人材育成、 魅力づくり、 理解促進、 有償化  任期の複数年化、 交代時期をずらす、 ローテーション、 経験者が残るように活動しながら 引き継ぎ、 引き継ぎ書、マニュアル化、 データ化 定年制、役員を増員、 OBの活用、 ボランティア、小・中学生の協力 まちづくりセンター職員、地区担当班の活用	役員になりたい人がいない たいへんという イメージが先行  業務の負担大きい 任期が1年交代 決め方がバラバラ 掛け持ち 長期、短期それぞれの メリットとデメリット

③活動の場・連携～情報共有方法

理想	提案アイデア	困っている
交流 やる気 お互いを知り合う	会議で パソコン活用 新聞発行 立て看板をつくる	情報を流す手段がない

③活動の場・連携～部会の活性化

理想	提案アイデア	困っている
<p>多くの人が関わり、連携課題や反省点、責任が共有できるように</p>	<p>人材発掘の場に 資格や専門家、 若い層の人材を登用</p>	
	<p>会議を行う 各団体の報告会 副会長を担当制に 事業を見直す 各団体の総会の集約</p>	<p>団体の詳細の情報が共有化 されていない 活動がマンネリ化 行事が多い</p>
	<p>具体的なテーマを持ってやる 部会で事業案を作成 部会で予算管理</p>	<p>予算がない 部会間の温度差 部会が動いていない 部会レベルまで意識を高める ことができない</p>
	<p>行事に合わせた形に部会を 再編成 イベントを通じた部の交流</p>	<p>部としてのまとめりか、行事 (仕事)か</p>
		<p>部会開催の場所がない</p>